

食品中の放射性物質に関わる行政の調査結果及び関連情報  
(4月23日～5月6日の情報)

**1. 行政による放射性物質検査**

福島第一原発事故が発生して以降、行政による検査が継続的にこなわれています。4月23日から5月6日までに7520件の検査がおこなわれました。基準を超えたものは13件でした。(厚生労働省のホームページから報告されている放射性物質検査の結果の概略から)。以下特徴についてまとめています。

**2. 検査結果について**

**(1)検査結果の概要**

表1. 検査結果の抜粋(4月30日～5月6日に検査された検査結果)です。

※検査を全国の都道府県で実施されていますが、ここで公表するのは福島県に隣接する県、もしくは、その週に基準を超えたものが発表された都道府県とします。

	都道府県名	検査数	基準超 合計	今週基準を 超えたもの		都道府県名	検査数	基準超 合憲	今週基準を 超えたもの
福島県	農産物	311	1	タラの芽	山型県	農産物	63	1	コシアブラ
	畜産物	265	0	—		畜産物	540	0	—
	水産物	141	0	—		水産物	0	0	—
	牛乳乳児用食品	7	0	—		牛乳乳児用食品	0	0	—
	野生鳥獣肉	0	0	—		野生鳥獣肉	3	0	—
	飲料水、その他	36	0	—		飲料水、その他	0	0	—
宮城県	農産物	351	7	コシアブラ, タケノコ	群馬県	農産物	34	3	タラの芽
	畜産物	190	0	—		畜産物	873	0	—
	水産物	176	0	—		水産物	19	0	—
	牛乳乳児用食品	5	0	—		牛乳乳児用食品	0	0	—
	野生鳥獣肉	0	0	—		野生鳥獣肉	0	0	—
	飲料水、その他	0	0	—		飲料水、その他	11	0	—
茨城県	農産物	29	0	—	長野県	農産物	31	1	コシアブラ
	畜産物	298	0	—		畜産物	10	0	—
	水産物	1	0	—		水産物	0	0	—
	牛乳乳児用食品	0	0	—		牛乳乳児用食品	0	0	—
	野生鳥獣肉	0	0	—		野生鳥獣肉	0	0	—
	飲料水、その他	0	0	—		飲料水、その他	1	0	—

表2. 福島県で採取された沿岸魚の検査結果の傾向(2013年3月26日の検査結果とここ最近の検査結果の比較)

検査結果判明日	検出限界以下となった割合	基準は超えていないが、何らかの数値が検出された割合	基準を超えた割合
2013年3月26日	52.6%	41.4%	5.9%
2017年 9月10日	100%	0.0%	0.0%
2017年 9月17日	100%	0.0%	0.0%
2017年 9月24日	100%	0.0%	0.0%
2017年10月 1日	100%	0.0%	0.0%
2017年10月 8日	99.3%	0.7%	0.0%
2017年10月15日	100%	0.0%	0.0%
2017年10月22日	100%	0.0%	0.0%
2017年10月29日	99.3%	0.7%	0.0%
2017年11月 5日	100%	0.0%	0.0%
2017年11月12日	100%	0.0%	0.0%
2017年11月19日	99.3%	0.7%	0.0%
2017年11月26日	98.9%	1.1%	0.0%

2017年12月 3日	97.6%	2.4%	0.0%
2017年12月10日	99.0%	1.0%	0.0%
2017年12月17日	99.6%	0.4%	0.0%
2017年12月24日	99.1%	0.9%	0.0%
2018年 1月21日	99.5%	0.5%	0.0%
2018年 1月28日	99.4%	0.6%	0.0%
2018年 2月 4日	98.9%	1.1%	0.0%
2018年 2月12日	97.9%	2.1%	0.0%
2018年 2月18日	100%	0.0%	0.0%
2018年 2月25日	98.9%	1.1%	0.0%
2018年 3月 4日	99.3%	0.7%	0.0%
2018年 3月11日	98.1%	1.9%	0.0%
2018年 3月18日	98.6%	1.4%	0.0%
2018年 3月25日	98.3%	1.7%	0.0%
2018年 4月 1日	99.6%	0.4%	0.0%
2018年 4月 8日	98.5%	1.5%	0.0%
2018年 4月15日	98.9%	1.1%	0.0%
2018年 4月22日	99.2%	0.8%	0.0%
2018年 5月 6日	100%	0.0%	0.0%
<b>2017年4月平均</b>	<b>97.3%</b>	<b>2.7%</b>	<b>0.0%</b>

基準を超えた沿岸魚はみつきませんでした。これで150週連続(約3年)となります。福島県の125検体の水産物(海洋)が検査されました。今週の結果で、放射性セシウムが検出された魚介類はありませんでした。

## (2)検査について基準を超えたものについて

- ①群馬県で採取した野生の山菜について基準値を超える放射性セシウムが検出された旨、公表されました。
  - ア. 群馬県吉岡町:タラの芽(110,130,200 ベクレル/キログラム)  
群馬県で採取されたタラの芽については、すでに出荷自粛措置が取られているため、市中には出回っていません。
- ②長野県で採取した野生の山菜について基準値を超える放射性セシウムが検出された旨、公表されました。
  - ア. 長野県軽井沢町(山林):コシアブラ(200 ベクレル/キログラム)  
長野県軽井沢町で採取されたコシアブラについては、採取、出荷及び摂取の自粛措置がとられているため、市中には出回っていません。
- ③宮城県で採取された野生の山菜、タケノコについて基準値を超える放射性セシウムが検出された旨、公表されました。
  - ア. 宮城県気仙沼市:コシアブラ(440,400,390 ベクレル/キログラム)
  - イ. 宮城県丸森町:タケノコ(130,160,120,170 ベクレル/キログラム)  
宮城県丸森町で採取されたタケノコ、宮城県気仙沼市で採取されたコシアブラについては、すでに出荷制限措置がとられているため市中には出回っていません。
- ④山形県で採取されたタラの芽について基準値を超える放射性セシウムが検出された旨、公表されました。
  - ア. 山形県最上町(最上地域神室山系):コシアブラ(130 ベクレル/キログラム)  
山形県最上町では、平成25年5月以降、出荷を自粛しているため市中には出回っていません。
- ⑤福島県で採取されたタラの芽について基準値を超える放射性セシウムが検出された旨、公表されました。
  - ア. 福島県北塩原村:タラの芽(110 ベクレル/キログラム)  
福島県北塩原市で採取されたタラの芽については、すでに出荷制限措置がとられているため市中には出回っていません。

## (3)京都の空間線量(4月23日～5月6日)

京都市の空間線量は(16.9メートル地点)、0.037～0.040 マイクロシーベルト/1時間、1メートルの高さの推計値は0.044～0.047 マイクロシーベルト/1時間となっています。福島市の空間線量は(2.5メートル地点)は0.10～0.11 マイクロシーベルト/1時間(1メートル地点は0.13～0.14 マイクロシーベルト/1時間)となっていま

す。

2012年の同時期が 0.8 マイクロシーベルト/1 時間となっており、今はこの時の 10 分の1くらいになってきました。しかし 0.1 マイクロシーベルトを下回るどころまで来たのは今回が初めてです。過去の平均は 0.038～0.046 マイクロシーベルト/1 時間(2.5メートル地点)となっておりまだ高い空間線量となっています。ただ、岐阜県や愛媛県といった日本でも放射線量の高い地域と比較した場合、倍くらいの値となっています。

### 3. 関連情報

#### (1) 福島の農産物輸出過去最高 震災前の記録更新(産経ニュースより)

福島県は23日、平成29年度の県産農産物の輸出量が約210トンになり、過去最高を記録したと発表した。22年度に約153トン記録した後、東日本大震災の影響で低迷していたが、東南アジア向けのコメや果物の輸出が大きく伸びた。

内堀雅雄知事は同日の記者会見で「県産農産物は風評によって今も厳しい状況が続いている。引き続き多くの国に、県産品の安全性と品質の高さを発信していきたい」と話した。

県によると、震災と東京電力福島第1原発事故発生直後の24年度には約2トンに激減。その後は徐々に回復し28年度には約67トンとなっていた。

29年度は特にコメの輸出が増えた。29年8月に内堀知事がマレーシアを訪問し、現地の貿易会社と取引に合意したことを受けて約101トンを輸出した。特産のモモ、ナシ、カキなどの果物もタイやベトナムへ輸出された。

#### (2) 福島の農産物「これなら安心」 福岡の生協組合員、風評払拭に取り組む現場視察(河北新報より)

福岡県のエフコープ生協の組合員らが4月24、25日日、福島県内を訪れ、東京電力福島第1原発事故からの復興や風評払拭(ふっしょく)に取り組む現場などを視察した。

主婦ら19人が参加した。25日は食品の放射性物質検査を行う福島市内の農協関連施設を訪問。野菜を刻んでの測定方法、農産物の99.9%が国の基準値(1キログラム当たり100ベクレル)を超えなかった昨年の測定結果などの説明を受けた。

昨年春に避難指示が一部を除き解除された福島県富岡町、東日本大震災の津波があった同県浪江町請戸地区も回った。同県郡山市の仮設住宅では、避難生活を続ける富岡町民と交流した。

北九州市の主婦山下伸子さん(62)は「農産物の検査現場を初めて見て『これなら安心』と実感できた。他の組合にも伝えたい」と語った。

同生協は福島県産農産物の販売促進など被災地支援を続けており、県内視察は6回目。

以上